

2021年度前期 「授業評価アンケート」 報告書

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	合田 誠	2133211	社会福祉（1・2・3組）	15回の授業で8回がオンライン授業、7回が対面授業であった。その様な状況下において、学生からの授業評価と照らし合わせると、9割近くの学生が到達目標を達成しているとの回答を得たのは担当者としては、決して満足しているわけではないが、ほぼこちらの取り組みが出来たものと判断している。ただ、学習時間は、オンライン授業時に授業課題提出とリンクしたため、十分には確保できていなかった様である。次年度はすべてが対面授業であることを願いたい、この予習・復習のあり方について考えていきたい。
保	合田 誠	2133212	社会福祉（4・5・6組）	15回の授業で8回がオンライン授業、7回が対面授業であった。その様な状況下において、学生からの授業評価と照らし合わせると、9割近くの学生が到達目標を達成しているとの回答を得たのは担当者としては、決して満足しているわけではないが、ほぼこちらの取り組みが出来たものと判断している。ただ、学習時間は、1・2・3組のグループとは違い、1時間以上費やした学生が7割近くいることが分かり、クラスによる差違があるのが理解できた。次年度はすべてが対面授業であることを願いたい、この予習・復習のあり方について考えていきたい。
保	合田 誠	2136631	保育実習指導Ⅰ（施設）	この授業は「保育実習指導Ⅰ（保育所）」との授業評価のため、また、担当している施設授業は、前期7回、後期8回の変則授業であった。内訳として前期は対面授業3回、オンライン授業4回であった。この様な事情があるため、アンケート調査に関するコメントは難しいかと思われるが、到達目標を達成してと感じている学生が、9割以上を占めている。予習・復習に関しては30分未満の学生が6割を超えている。つまり、1週間の中では殆ど授業外の学修が出来ていない。次年度に向けては、この授業外学修の充実を再考しなければならない。
保	合田 誠	2136632	保育実習指導Ⅰ（施設）	この授業は「保育実習指導Ⅰ（保育所）」との授業評価のため、また、担当している施設授業は、前期7回、後期8回の変則授業であった。内訳として前期は対面授業3回、オンライン授業4回であった。この様な事情があるため、アンケート調査に関するコメントは難しいかと思われるが、到達目標を達成してと感じている学生が、9割以上を占めている。予習・復習に関しては30分未満の学生が6割を超えている。つまり、1週間の中では殆ど授業外の学修が出来ていない。次年度に向けては、この授業外学修の充実を再考しなければならない。
保	合田 誠	2136633	保育実習指導Ⅰ（施設）	この授業は「保育実習指導Ⅰ（保育所）」との授業評価のため、また、担当している施設授業は、前期7回、後期8回の変則授業であった。内訳として前期は対面授業3回、オンライン授業4回であった。この様な事情があるため、アンケート調査に関するコメントは難しいかと思われるが、到達目標を達成してと感じている学生が、9割以上を占めている。予習・復習に関しては他クラスとは異なり、1時間以上の学習時間をとった学生が6割を超えている。つまり、他クラスとは異なり、このクラスの学習意欲は相当高いと判断できる。このクラスの学習意欲は高いと分かったが、次年度に向けては、この授業外学修の充実を再考しなければならない。
保	合田 誠	2151014	卒業ゼミ（合田ゼミ）	対面授業6回、オンライン授業9回の授業方法であった。「児童虐待」に問題意識をもってもらい、基礎的な学修を中心に進めてきたが、各学生の発表に関してはオンライン授業では大変苦慮した。つまり、「ZOOM授業」では、お互いに顔が見えていない状況で声のみのやり取りが中心となり、議論がなかなか深まらなかった。しかしながら、この様な状況下でも、何とか到達目標を達成した学生は8割を超えていた。さらには、1時間以上の学習時間を確保した学生が7割を超えていることから、授業に対しては非常に真摯に捉えていたことが見て取れる。次年度の課題としては、仮にオンライン授業をせざるを得なくなっても演習授業を上手く展開させる工夫を考えていきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	長谷 秀揮	2151017	卒業ゼミ	シラバスの到達目標の達成状況については、授業評価アンケートの学生からの回答によると「かなり達成できた」が33%、そして「少しは達成できた」が67%という結果であり、十分とまでは言えないまでもある程度は、達成できたのではないかと考える。「授業での、積極的な参加を促すための工夫」については、「そう思う」が83%、そして「ややそう思う」が17%という結果であり、授業に対する満足度が高いことがうかがえる。引き続き、授業の質の向上につながるように授業内容、及び方法の工夫改善に取り組み、受講学生の満足度をさらに高めていくことができるように努めたい。
保	長谷 秀揮	2136641	保育実習Ⅰ	シラバスの到達目標の達成状況については、授業評価アンケートの学生からの回答によると「かなり達成できた」が13%、そして「少しは達成できた」が81%という結果であり、一定程度は達成できたと考えられる。しかし「あまり達成できなかった」と「ほとんど達成できなかった」が、合わせて7%という結果については今後の課題といえる。また「授業での、積極的な参加を促すための工夫」については、「そう思う」が30%、そして「ややそう思う」が55%という結果であり、授業に対する満足度がある程度高いことがうかがえる。引き続き、授業の質の向上につながるように授業内容、及び方法の工夫改善に取り組み、受講学生の満足度をさらに高めていくことができるよう努めたい。
保	長谷 秀揮	2136631	保育実習指導Ⅰ（1・2組）	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「かなり達成できた」が17%、そして「少しは達成できた」が78%という結果であり、おおよそは達成できたと考えられる。しかし「あまり達成できなかった」が、4%という結果については今後の課題といえる。また「授業での、積極的な参加を促すための工夫」については、「そう思う」が30%、そして「ややそう思う」が57%という結果であり、授業に対する満足度、ある程度高いことがうかがえる。授業の質の向上につながるように授業内容、及び方法の工夫改善に引き続き取り組み、受講学生の満足度をさらに高めていけるように努めたい。
保	長谷 秀揮	2136632	保育実習指導Ⅰ（3・4組）	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「かなり達成できた」が11%、そして「少しは達成できた」が81%という結果であり、一定程度は達成できたと考えられる。しかし「あまり達成できなかった」が、7%という結果については今後の課題といえる。また「授業での、積極的な参加を促すための工夫」については、「そう思う」が26%、そして「ややそう思う」が44%という結果であり、全体として授業に対する満足度がある程度高いことがうかがえる。授業の質の向上につながるように授業内容、及び方法の工夫改善に引き続き取り組み、いっそう受講学生の満足度を高めていくように努めたい。
保	長谷 秀揮	2136633	保育実習指導Ⅰ（5・6組）	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「かなり達成できた」が6%、そして「少しは達成できた」が81%という結果であり、おおよそは達成できたと考えられる。しかし「あまり達成できなかった」が、13%という結果については今後の課題といえる。また「授業で積極的な参加を促すための工夫がされていたか」については、「そう思う」が30%、そして「ややそう思う」が57%という結果であり、授業に対する満足度が一定程度高いことがうかがえる。授業の質の向上につながるように、授業内容・方法の工夫改善に継続的に取り組み、受講学生の満足度をさらに高めていくように努めたい。
保	長谷 秀揮	2137031	幼児と環境（1・2・3組）	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「かなり達成できた」が11%、そして「少しは達成できた」が78%という結果であり、一定程度達成できたと考えられる。しかし、「あまり達成できなかった」と「ほとんど達成できなかった」が合わせて11%という結果については、今後の課題として捉えることができる。また「授業で積極的な参加を促すための工夫がされていたか」については、「そう思う」が27%、そして「ややそう思う」が51%という結果であり、授業に対する満足度がある程度高いことがうかがえる。授業内容・方法の吟味及び工夫改善に継続的に取り組み、授業の質の向上を図り、受講学生の満足度をさらに高めていくよう努めたい。
保	長谷 秀揮	2137032	幼児と環境（4・5・6組）	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「かなり達成できた」が11%、そして「少しは達成できた」が79%という結果であり、ある程度達成できたと考えられる。しかし、「あまり達成できなかった」と「ほとんど達成できなかった」が、合わせて11%という結果については今後の課題として捉えることができる。また「授業で積極的な参加を促すための工夫がされていたか」については、「そう思う」が39%、そして「ややそう思う」が43%という結果であり、授業に対する満足度が一定程度、高いことがうかがえる。受講学生の満足度をさらに高めることが出来るように、授業内容・方法の吟味及び工夫改善に継続的に取り組み、授業の質の向上に努めたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	阪野 学	2151015	卒業ゼミ（阪野ゼミ）	通年科目であり前期予定していた内容については大体予定通り行うことができた。しかし、予定していたフィールドワークがコロナ感染予防による緊急事態宣言のため当初3か所を予定していたが、2か所に変更して前期の後半に何とか行うことができた。フィールドワークの実施が遅れた分オンラインの授業で集中して論文の読み合わせを行うことができ論文作成に向けて学生たちの理解を深めることができたと推察する。後は、夏休みの宿題として参考文献の読み込みやデータ収集などがどこまで取り組めるかが後期の論文作成の進捗に大きく関わってくる。夏休み中にも必要に応じて宿題の進捗について指導を行う。
保	阪野 学	2133171	子ども家庭支援論	本科目の到達目標に向けてオンラインの授業だけでなく対面の授業においても毎時間課題を課し学外学修に取り組ませた。授業ではテキストの内容をしっかりと確認し復習と云うかたちで学外学修の課題に取り組んでもらった。毎時間の課題の取り組みは大変であったと思われるが、多くの学生がまじめに取り組んでいた。しかし、本科目の到達目標の内容を定期試験に替わる授業内提出レポートとして課して提出させたが、相対的に評価は芳しくなかった。この課題は後期の演習科目の「子育て支援」で引き続いて学修に取り組ませることとする。
保	阪野 学	2133172	子ども家庭支援論	本科目の到達目標に向けてオンラインの授業だけでなく対面の授業においても毎時間課題を課し学外学修に取り組ませた。授業ではテキストの内容をしっかりと確認し復習と云うかたちで学外学修の課題に取り組んでもらった。毎時間の課題の取り組みは大変であったと思われるが、多くの学生がまじめに取り組んでいた。しかし、本科目の到達目標の内容を定期試験に替わる授業内提出レポートとして課して提出させたが、相対的に評価は芳しくなかった。この課題は後期の演習科目の「子育て支援」で引き続いて学修に取り組ませることとする。
保	阪野 学	2133362	社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅰのより実践的な授業としての演習科目であったが、コロナの感染予防のため対面においてはグループワークやペアワーク及びプレゼンテーション等は行わず映像を使い実践的な内容について理解を深めた。また、オンライン授業以外の対面授業においても毎時間課題を課し視聴した映像の内容について考察等をさせ学外学修に取り組ませた。また、最後には本科目の到達目標としている内容についてレポートを課し提出させた。総体的に良く書いており理解を深めることができたことと推察することができる。本科目は施設に就職する場合にのみ学修する必要があると考えている学生が散見されるためそうでないことを理解させることが今後の課題である。
保	阪野 学	2133141	家庭支援論	アンケートの回答がなかったが、本科目の到達目標に向けてオンラインの授業だけでなく対面の授業においても毎時間課題を課し学外学修に取り組ませた。授業ではテキストの内容をしっかりと確認し復習と云うかたちで学外学修の課題に取り組んでもらった。毎時間の課題の取り組みは大変であったと思われるが、多くの学生がまじめに取り組んでいた。しかし、本科目の到達目標の内容を定期試験に替わる授業内提出レポートとして課して提出させたが、相対的に評価は芳しくなかった。その課題については、再試験として再度到達目標の内容についてレポートを課し再確認をさ理解を深めてもらうこととする。
保	阪野 学	2133361	社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅰのより実践的な授業としての演習科目であったが、コロナの感染予防のため対面においてはグループワークやペアワーク及びプレゼンテーション等は行わず映像を使い実践的な内容について理解を深めた。また、オンライン授業以外の対面授業においても毎時間課題を課し視聴した映像の内容について考察等をさせ学外学修に取り組ませた。また、最後には本科目の到達目標としている内容についてレポートを課し提出させた。総体的に良く書いており理解を深めることができたことと推察することができる。本科目は施設に就職する場合にのみ学修する必要があると考えている学生が散見されるためそうでないことを理解させることが今後の課題である。
保	鍛冶谷 静	2151010	卒業ゼミ	文献や事例の検討を中心に行ったが、オンライン授業も含めて概ね理解できた様子で良かった。課題への取り組みも良好な科目だった。後期は発表の機会などを設け、学習への動機づけをさらに高めていきたい。
保	鍛冶谷 静	2131311	発達心理学（1・2・3組）	期末の筆記試験の結果と学生の自己評価にギャップはなく、授業内容を概ね理解できていた。授業時間外の学習に当てた時間が少ない結果となっており、達成状況もふまえると課題の難度を少し上げて良いかもしれないと思った。
保	鍛冶谷 静	213131	発達心理学（4・5・6組）	期末の筆記試験の結果と学生の自己評価にギャップはなく、授業内容を概ね理解できていた。授業時間外の学習に当てた時間が少ない結果となっており、達成状況もふまえると課題の難度を少し上げて良いかもしれないと思った。
保	鍛冶谷 静	2131312	子どもの理解と援助（1・2・3組）	対面授業での熱心な聴講態度が、学生の自己評価にも反映されていると感じられたが、障害など専門的な知識の正確な理解に関しては課題が残る。もう少し時間を割いて丁寧な説明を行い、改善したい。
保	鍛冶谷 静	2133242	子どもの理解と援助（4・5・6組）	理解度や時間外学習に当てた時間、学生の自己評価において、同科目別クラスと比べると低かった。この結果をどのように理解すれば良いのか難しいが、対面授業時のクラスの雰囲気なども影響しているかもしれない。学生の反応を見ながらの丁寧な説明とともに、集中して取り組める環境づくりに努めたいと思う。
保	鍛冶谷 静	2271171	性格の理解と把握	期末の筆記試験の結果と学生の自己評価にギャップはなく、概ね理解できていた。少人数の授業であったが、そのメリットを十分に生かすことができなかったことが反省点のひとつである。学生の興味関心をさらに引き出す工夫を考えたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	山田 秀江	2137041	幼児と言葉 1, 2, 3組	アンケート結果では94%の学生が到達目標を達成できた（「かなり」、「少しは」を合わせて）と回答しており、学生の成績の合格状況から見ても、概ねシラバスの到達目標を達成できたと考察できる。ただし、アンケート結果では「かなり達成できた」が8%「少しは達成できた」が86%だったことから、学生が感じる達成度を向上させるため、積極的に参加を促し、理解を深めるための授業改善が必要だと考えている。
保	山田 秀江	2137042	幼児と言葉4, 5, 6組	アンケート結果では89%の学生が到達目標を達成できた（「かなり」、「少しは」を合わせて）と回答しており、学生の成績の合格状況から見ても、概ねシラバスの到達目標を達成できたと考察できる。アンケートの間1の結果では、積極的な参加を促すための工夫に関して、「そう思わない」との回答が1名（3%）あり、全員の学生が積極的に授業に取り組めるよう授業改善を行いたい。
保	山田 秀江	2136571	教育実習指導Ⅱ1, 2, 3組	アンケート結果では96%の学生が達成できた（「かなり」、「少しは」を合わせて）と回答しており、学生の成績の合格状況から見ても、概ねシラバスの到達目標を達成できたと考察できる。ただし、アンケート結果で1名の学生があまり達成できなかったと回答している。実習の事前指導の授業であることから、学生全員が授業目標を達成できたと感じ、教育実習Ⅱに積極的に臨めるよう授業改善や個別の支援などを行いたいと考えている。
保	山田 秀江	2136572	教育実習指導Ⅱ4,5,6組	アンケート結果では85%の学生が達成できた（「かなり」、「少しは」を合わせて）と回答しており、学生の成績の合格状況から見ても、概ねシラバスの到達目標を達成できたと考察できる。アンケートの間1の結果では、積極的な参加を促すための工夫に関して、「あまり思わない」との回答が3名（11%）あり、学生が積極的に授業に取り組めるよう、また教育実習に向かうモチベーションを高められるように授業改善を行いたい。
保	山田 秀江	2151019	卒業ゼミ	アンケート結果では7名/8名（88%）の学生が達成できた（「かなり」、「少しは」を合わせて）と回答しており、概ねシラバスの到達目標を達成できたと考察できる。1名の学生があまり達成できなかったと回答しており、後期の授業では、自分の研究課題を明確にもち、積極的に探究活動ができるよう授業内容や指導方法の工夫を行いたい。
保	千田 耕太郎	2134332	保育内容演習（総合表現）（3・4組）	今期は、コロナ禍で授業の半分以上がオンラインとなり、学生の満足度、到達度評価が気になっていたが、オンライン課題の提出や、実際の提出物、最終発表の取り組みを見ると、このクラスは頑張っており取り組んでいる学生が多いと感じていた。しかし、学生評価アンケートのシラバス到達目標達成度を見ると、思ったよりも低く評価していることが解り、驚いた。教員の評価を、授業を通して解りやすく具体的に伝える必要があると感じた。
保	千田 耕太郎	2137052	幼児と音楽Ⅰ（3・4組）	コロナ禍でのオンライン授業の影響で、対面でのピアノレッスンが1/2ほどしか実施できず、学生のシラバス到達目標達成度がとても気になっていたが、回答者70%のうちの9割以上の学生が「達成できた」と評価していて少し安心した。ただ、後期もオンライン授業が続く見込みが高く、難しさを伴うオンラインでのピアノレッスンについて、少しでも問題点を克服してより良い指導につなげられるよう、工夫が必要だと感じている。
保	千田 耕太郎	2137053	幼児と音楽Ⅰ（5・6組）	コロナ禍でのオンライン授業の影響で、対面でのピアノレッスンが1/2ほどしか実施できず、学生のシラバス到達目標達成度がとても気になっていたが、回答者53%のうちの9割の学生が「達成できた」と評価していて少し安心した。ただ、このラスの回答率が低かったのが気になったことと、後期もオンライン授業が続く見込みが高く、難しさを伴うオンラインでのピアノレッスンについて、少しでも問題点を克服してより良い指導につなげられるよう、工夫が必要だと感じている。
保	千田 耕太郎	2137072	幼児と音楽Ⅲ（4・5・6組）	この学年は1年生の時から殆どがオンライン授業で、ピアノの進度が心配され、学生のシラバス到達目標達成度がどのようになるか心配していたが、75%の回答者のうち89%の学生が「到達できた」と評価しており安心した。しかし、後期もオンライン授業が続く見込みが高く、難しさを伴うオンラインでのピアノレッスンを通して、保育士として必要な音楽（ピアノ）の力を身につけるため、より良い指導が出来るよう、工夫が必要だと感じている。
保	千田 耕太郎	216011	こども音楽療育概論	授業の半分以上がオンラインで、授業内容が学生にどの程度定着しているか心配であったが、約55%の回答者の全員がシラバスの到達目標達成について「達成できた」と回答していて、少しは安心した。ただ、回答率が54.5%と低かったため、全員に回答してもらうような働きかけが足りなかったと感じている。
保	千田 耕太郎	2161031	こども音楽療育実習	実習指導の授業であるが、殆どがオンライン授業となり、十分な指導が出来ていたか心配であったが、学生評価アンケートの回答を見ると、シラバスの到達目標達成度は回答者全員が「達成できた」と回答しており、安心した。ただ、回答率が45.5%とかなり低かったため、全員に回答してもらうような働きかけが足りなかったと感じている。
保	千田 耕太郎	2151016	卒業ゼミ（千田ゼミ）	この授業に関しては、回答者が0であった。真面目に取り組む学生が多くいるにもかかわらず、このような結果になってしまったことは、教員として回答への働きかけが足りなかったと反省している。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	金川 朋子	211031	日本国憲法と人権	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが18%少し達成できた73%であり、ほとんど達成できなかったは、0%であった。シラバスの到達目標に達していると考え。授業内容は、高校までの学んできた内容も多く含まれているが、保育者の視点で学びを深められるように努めた。予習復習課題を提示してきたが、30分未満の学生が多くいる点、今後、授業外での学びの設定や他の科目との連携した学びの充実を検討していきたい。
保	金川 朋子	211032	日本国憲法と人権	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが12%少し達成できた82%であり、ほとんど達成できなかったは、0%であった。シラバスの到達目標に達していると考え。授業内容は、高校までの学んできた内容も多く含まれているが、保育者の視点で学びを深められるように努めた。予習復習課題を提示してきたが、30分未満の学生が多くいる点、今後、授業外での学びの設定や他の科目との連携した学びの充実を検討していきたい。
保	金川 朋子	2133061	特別支援教育総論Ⅰ	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが5%少し達成できた95%であり、ほとんど達成できなかったは、0%であった。シラバスの到達目標に達していると考え。しかし、あまり理解できなかったと回答した学生が1人であった。後期の授業内で、前期の学習内容を復習しながら、理解を深めさせていきたいと考える。授業内容は、高校までに学んできていない内容であり、前期では、基本的な内容を中心に取り組んできており、後期の授業では、より、実践的、演習的な要素を深め、保育実践力の養成に重点を置き、取り組んでいきたいと考えています。
保	金川 朋子	2133062	特別支援教育総論Ⅰ	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが15%少し達成できた77%であり、ほとんど達成できなかったは、0%であった。シラバスの到達目標に達していると考え。しかし、あまり理解できなかったと回答した学生が5人（19%）いる点については、後期の授業内で、前期の学習内容を復習しながら、理解を深めさせていきたいと考える。授業内容は、高校までに学んできていない内容であり、前期では、基本的な内容を中心に取り組んできており、後期の授業では、より、実践的、演習的な要素を深め、保育実践力の養成に重点を置き、取り組んでいきたいと考えています。
保	金川 朋子	2133063	特別支援教育総論Ⅰ	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが6%少し達成できた77%であり、ほとんど達成できなかったは、0%であった。シラバスの到達目標に達していると考え。しかし、あまり理解できなかったと回答した学生が3人（17%）いる点については、後期の授業内で、前期の学習内容を復習しながら、理解を深めさせていきたいと考える。授業内容は、高校までに学んできていない内容であり、前期では、基本的な内容を中心に取り組んできており、後期の授業では、より、実践的、演習的な要素を深め、保育実践力の養成に重点を置き、取り組んでいきたいと考えています。
保	金川 朋子	2151012	卒業ゼミ（金川ゼミ）	学生の達成目標に対する回答では、かなり達成できたが2人、少し達成できた3人であり、ほとんど達成できなかったはいなかった。問1では、そう思うが4人、ややそう思うが1人の回答であり、ZOOMでの授業においても、実技に取組、オリジナルの体操を創作し、提出された動画に対して個別指導を行うなど、また、学生たちの意見が交流できるように、工夫した点が評価されたものとする。卒業ゼミだからこそできる学びの展開を今後も工夫していきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	木村 美佳	2132061	子どもの健康と安全（1， 2， 3組）	アンケートの結果から、「目標を達成が出来ず、理解ができなかった」という回答があった。授業設定や授業の目標を見直す必要があるという結果だと考えています。授業で使用する資料やスライド以外に、口頭での説明を入れているが、この口頭の部分も文字や視覚的に理解しやすい資料を作成する必要があると感じている。後期からは授業中にオンタイムで文字化するような授業の工夫をしていきます。
保	木村 美佳	2132062	子どもの健康と安全（4， 5， 6組）	1， 2， 3組と同じように、視覚的に理解しやすい資料を作成する必要があると感じている。後期からは授業中にオンタイムで文字化するような資料を作成できるようにしていきます。授業ガイダンスで伝えた「主体的に取り組み、自分の考えを表現する」ことを実行している学生が多い。課題の評価方法をプリントにして配布したが、今後、対面、オンライン双方で学生が主体的により取り組みやすい方法をリフレクションシートを通して教授していく。
保	木村 美佳	213308	乳児保育Ⅰ（4， 5， 6組）	授業開始3回と終了時の3回以外はすべてオンラインとなった。子どもの年齢別の発達、発育の姿を見せる授業や、実際に保育施設で作成する保育のプログラムの項目がオンラインとなった。写真を多く使用したスライドを作成したが、動画や実際の話し合いが無かったために、理解が難しい授業の一つとなった。今後もオンライン授業になる可能性もあるため、さらに視覚的にわかりやすい教材を作成し今後（後期）の授業に取り組みむ。
保	木村 美佳	2133082	乳児保育Ⅰ	授業開始3回と終了時の3回以外はすべてオンラインとなった。子どもの年齢別の発達、発育の姿を見せる授業や、実際に保育施設で作成する保育のプログラムの項目がオンラインとなった。写真を多く使用したスライドを作成したが、動画や実際の話し合いが無かったために、理解が難しい授業の一つとなった。今後もオンライン授業になる可能性もあるため、さらに視覚的にわかりやすい教材を作成し今後（後期）の授業に取り組みむ。
保	香月 欣浩	2137091	幼児と図工Ⅰ（1.2組）	実技科目でありながら、2か月間、自宅でのオンライン授業であったためか問2の内容課題の理解できた回答が50%しかないのが気になる。学生から聞き取りなどして次回はいまう少し理解度があがるように努めたい。
保	香月 欣浩	2137092	幼児と図工Ⅰ（3.4組）	実技科目でありながら、2か月間、自宅でのオンライン授業であったためか問4のシラバスの到達目標についての回答で、「少しは達成できた」が76%もあり、「かなり達成できた」が24%しかないのが気になる。次回はもう少し達成度があがるように努めたい。
保	香月 欣浩	2137093	幼児と図工Ⅰ（5.6組）	実技科目でありながら、2か月間、自宅でのオンライン授業であったためか問4のシラバスの到達目標についての回答で、「少しは達成できた」が55%もあり、「かなり達成できた」が45%しかないのが気になる。次回はもう少し達成度があがるように努めたい。
保	香月 欣浩	2151011	卒業ゼミ	積極的な参加を促す工夫に対しては88%が「そう思う」としてくれているがシラバスの達成度に対しては「かなり達成できた」が13%と低いので後期はさらに工夫をして実践をしていきたい。
保	香月 欣浩	2134331	保育内容演習（総合表現）（1.2組）	表現活動であるにもかかわらず、オンラインで2か月間行なってきた。しかし対面ではできないことも達成できた。ただ、やはり対面でしか行えないものができなかったため、シラバスの達成度評価は低い。次回からの課題である。
保	香月 欣浩	2134332	保育内容演習（総合表現）（3.4組）	表現活動であるにもかかわらず、オンラインで2か月間行なってきた。しかし対面ではできないことも達成できた。ZOOMをつかったの個人指導もおこなえた。ただ、やはり対面でしか行えないものができなかったため、シラバスの達成度評価は低い。次回からの課題である。
保	香月 欣浩	2134333	保育内容演習（総合表現）（5.6組）	積極的な参加を促す工夫に対しては76%が「そう思う」としてくれている。ただシラバスの達成度に対しての質問にはあまり達成できなかったと答えた学生が2人おり、次回の課題となった。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	森 麻希子	2110151	子ども文化Ⅰ（音楽）	受講者98名、回答率は72.4%であった。「シラバスに示された到達目標の達成状況」について、17%が「かなり達成できた」、80%が「少しは達成できた」、3%が「あまり達成できなかった」と回答した。評価割合について、S（9.2%）、A（45.9%）、B（34.7%）、C以下が10.2%であった。成績と学生の自己評価に差が見られるのは、授業の特性上、前期授業の3分の2がオンライン授業となった影響もあるのではないかと考える。ZOOMで可能な限り、演習、授業内発表やグループワークを実施したが、対面授業であれば自然に学生同士で共有される実践、体験が、画面越しのやり取りでは制限されるため、どのように実践・体験の共有を図るか工夫する必要がある。
保	森 麻希子	2151018	卒業ゼミ（森ゼミ）	受講者9名、回答率は100%であった。「シラバスに示された到達目標の達成状況」について、44%が「かなり達成できた」、56%が「少しは達成できた」であった。この授業では音楽を取り扱い、ピアノ連弾など実技を伴う。途中、オンライン授業となったが、前期の成果発表では対面での演奏発表ができたこともあり、一定の手ごたえがあったのではないだろうか。オンライン授業時にはZOOMの使用を基本としたが「音の聴こえ方」や通信状況は個々の使用機器やネット環境によるため、授業内での取組では聴こえ方の違いや、回線の不安定から難しさを感じる場面もあった。状況による難しさはあるが、今後もできるだけ「体験」を伴う授業を展開していきたい。
保	森 麻希子	2137051	幼児と音楽Ⅰ（1・2組）	受講者34名、回答率は64.7%であった。「シラバスに示された到達目標の達成状況」について、「かなり達成できた」27%、「少しは達成できた」68%、「あまり達成できなかった」5%であった。評価割合はA以上が47.1%、B・Cが41.2%、他11.7%だった。この授業はピアノ実技を伴うため、課題曲の進み具合は個々の能力によるところが大きい。特にピアノ初心者も途中オンライン授業となってしまったことで、難しい面もあったと思うが、中でもそれぞれが努力した結果が出たのではないだろうか。今後も状況によってはオンライン授業となる可能性があると思われるため、個々の状況に応じてフォローしていくようにしたい。
保	森 麻希子	2161021	こども音楽療育演習	受講者11名、回答率は54.5%であった。「シラバスに示された到達目標の達成状況」について、33%が「かなり達成できた」、67%が「少しは達成できた」であった。評価割合について、S・Aはそれぞれ36.4%、Bは9.1%、Cは18.2%だった。途中オンラインとなったことで、楽器等に実際に触れたり、グループワークの中で学びあったりという実践する機会が当初の予定よりも少なくなってしまった。今後もフォローの方法を検討しながら、より充実した授業内容を展開できるように努めていきたい。
保	森 麻希子	2134331	保育内容演習（総合表現）（1・2組）	学生の自己評価と、成績の結果についてほぼ同じような評価割合となった。オンライン授業となったこともあり、個々の取り組みについて心配していた面もあったが、最終的にはそれぞれが工夫した個人発表ができた。全体的に細やかな表現の仕方については改善の余地があるように感じたので、オンラインとなった場合も演技指導の工夫をしていきたい。
保	森 麻希子	2134333	保育内容表現（総合表現）（5.6組）	受講者27名、回答率は63%だった。シラバスの到達目標について、9割ほどが『かなり達成・少しは達成できた』と回答しており、学生の自己評価と成績に大きな開きはなかった。日々の取り組みについて、アンケートの結果をみると真面目に取り組んでいた回答が大半であり、授業内発表も充実したものとなった。しかし、オンライン授業の内容について理解できなかった、という回答もあるためそういった学生へのフォローを今後も細やかに行なっていくようにしたい。
保	森 麻希子	2137071	幼児と音楽Ⅲ（1・2・3）	受講者33名、回答率69.7%であった。学生の自己評価と成績についてほぼ対応する形となった。この科目はピアノ実技を伴うため、学生の日々の取り組みと結果が直結している。途中オンライン授業となったため、機器やネット環境の状況によっては難しい側面もあったかもしれないが、出来るだけフォローをしていくよう努めた。今後もそれぞれがステップアップ出来るよう細やかに対応していきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	岡山 貴範	2134161	保育内容演習（環境・健康） 1、2、3組	シラバスの到達目標は、授業評価アンケート結果と成績から見て、概ね達成されたのではないかと考えます。コロナの影響により、途中ZOOMによるオンライン授業に切り替わってしまった為、対面授業で用意していた演習等ができなくなってしまったことや、コロナ感染対策から積極的なグループワーク等が出来なかったことにより、全てのことを正確に理解してもらうことが難しかった可能性があると思います。このコロナの影響でオンライン授業がいつまで続くかわからないことを念頭に置き、オンライン授業であってもシラバスの到達目標を受講者全員が達成できるような授業の進め方を考えていきたいと思っています。
保	岡山 貴範	2134162	保育内容演習（環境・健康） 4、5、6組	シラバスの到達目標は、授業評価アンケート結果と成績から見て、概ね達成されたのではないかと考えます。コロナの影響により、途中ZOOMによるオンライン授業に切り替わってしまった為、対面授業で用意していた演習等ができなくなってしまったことや、コロナ感染対策から積極的なグループワーク等が出来なかったことにより、全てのことを正確に理解してもらうことが難しかった可能性があると思います。このコロナの影響でオンライン授業がいつまで続くかわからないことを念頭に置き、オンライン授業であってもシラバスの到達目標を受講者全員が達成できるような授業の進め方を考えていきたいと思っています。
保	岡部 祐佳	2115021	日本語表現（スタディスキル含む）	アンケートの自己評価と実際の成績を見比べると、やや自己評価が高い傾向にあるように思われる。予習・復習および課題に当てた時間の割合と実際の成績との間には相関関係が見られることから、真面目に予習・復習や課題に取り組んだ学生については、シラバスの到達目標の達成度も高くなったと考えられる。とくに本授業では課題へのフィードバックを丁寧に行ったため、そのフィードバックを確認して復習したかどうかという点は、到達目標の達成度に大きな影響を与えたと推測される。「問2」と「問4」の回答結果に大きな開きがないことから、オンラインで実施した授業においても、一定の成果が得られたと考えられる。ただし、積極的な参加を促すための工夫がなされていたかという問いについて、「そう思う・ややそう思う」が若干上回るものの、「あまり思わない」「そう思わない」の割合も拮抗している点は注意すべきである。これはおそらく、後半で行ったレポートの書き方に関する授業において、手を動かして行う作業が少なかったことが要因であろう。今後はレポートの書き方に関する授業においても、課題や作業を取り入れる工夫を行う必要がある。
保	岡部 祐佳	2115022	日本語表現（スタディスキル含む）	アンケートの自己評価と実際の成績を見比べたところ、おおむね適切な自己評価が行われているように見受けられる。本クラスでは予習復習に2時間以上を当てた学生が複数見られる。そのように真面目に授業や課題に取り組んだ学生については、シラバスの到達目標の達成度も高くなったと考えられる。「問2」と「問4」の回答結果に大きな開きがないことから、オンラインで実施した授業においても、一定の成果が得られたと考えられる。ただし、積極的な参加を促すための工夫がなされていたかという問いについて、「そう思う・ややそう思う」が若干上回るものの、「あまり思わない」「そう思わない」の割合が拮抗している点は注意すべきである。これはおそらく、後半で行ったレポートの書き方に関する授業において、手を動かして行う作業が少なかったことが要因であろう。今後はレポートの書き方に関する授業においても、課題や作業を取り入れる工夫を行う必要がある。
保	岡部 祐佳	2115023	日本語表現（スタディスキル含む）	アンケートの自己評価と実際の成績を見比べたところ、おおむね適切な自己評価が行われているように見受けられる。本クラスでは予習復習に2時間以上を当てた学生が見られる。そのように真面目に授業や課題に取り組んだ学生については、シラバスの到達目標の達成度も高くなったと考えられる。「問2」と「問4」の回答結果に大きな開きがないことから、オンラインで実施した授業においても、一定の成果が得られたと考えられる。ただし、積極的な参加を促すための工夫がなされていたかという問いについて、「そう思う・ややそう思う」が若干上回るものの、「あまり思わない」「そう思わない」の割合も拮抗している。これはおそらく、後半で行ったレポートの書き方に関する授業において、手を動かして行う作業が少なかったことが要因であろう。今後はレポートの書き方に関する授業においても、課題や作業を取り入れる工夫を行う必要がある。
保	須河内 優子	2131031	保育原理	今期は、遠隔と対面のハイブリット授業であったため、遠隔授業で十分に伝えることができなかったところを、対面授業で補うことができ、ある程度は、学生の理解度を確認しながら進めることができた。半面、学生一人一人へのきめ細やかなサポートが十分でなかったため、「少しは達成できた」が多数だったように思う。今後は、遠隔であっても、対面であっても、一人一人とのやり取りを大事にし、関係を築きながら、学生にあった授業を作り変えながら、達成度を高めていきたい。
保	川松 智子	2110161	子ども文化Ⅱ腹話術	学生のアンケート結果を読み、良く理解していたことに感謝です。少ない人数だったため、丁寧に接することが出来たと思います。一枚の布からパペットを仕立て上げ、保育現場での活用方法を考察し、今、話題に上がることの多い発達障害のお子さんへの活用方法などにも積極的に研究できたと思います。実践が主になる授業でしたので、実習などでも役立つと思います。それぞれの台本発表などでは、他の生徒を見て刺激を受け合い伸びていく様子が見られました。どの生徒も、思っていた以上に実力がついたと思います。対面授業とオンライン授業のミックスでしたがそれぞれに授業において長所があり、複合的に良かったと思います。前向きに、意欲をもって取り組んでくれたと思います。
保	多田 知正	2110171	子ども文化Ⅲ（WEBデザイン）	対面授業の全面的な禁止に伴い、やむなくオンラインの課題に切り替えたが、本来はパソコンを用いた演習が中心となる科目であるにもかかわらず、自宅にパソコンのない学生が多くなる状況であるため、一部授業内容を変更せざるを得なかった。そのため当初の到達目標を十分達成できたとは言えない状況であるが、提出された課題の内容を見る限り、ある程度の目標達成は見られ、また変更した内容についても学生にとって意義のあるものであったと考えている。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	谷 玲子	2134331	保育内容演習（総合表現）	シラバス到達目標は、達成できた・少しは達成できたと感じている学生が80%を超えているが、問い3の予習復習及び課題にあてた時間が、2時間以上と答えた学生が50%を超えている。90分×3の授業を受講し、2時間以上の家庭学習は少し多い気がする。つまり、課題の良が多すぎることになります。半分为Web授業で、制作の段階から各自1人での制作となり、大変苦労が多かったことと思います。学生型よく頑張ってくれたと感じています。Web授業では、理解できましたかという問いにあまり理解できなかったと回答した学生が11%あったと言う事で、もう少し深い説明が必要であったかな？と感じています。
保	谷 玲子	2134332	保育内容演習（総合表現）	シラバス到達目標は、達成できた・少しは達成できたと感じている学生が80%を超えているが、問い3の予習復習及び課題にあてた時間が、2時間以上と答えた学生が59%となっている。90分×3の授業を受講し、2時間以上の家庭学習は少し多い気がする。つまり、課題の良が多すぎることになります。半分为Web授業で、制作の段階から各自1人での制作となり、大変苦労が多かったことと思います。学生型よく頑張ってくれたと感じています。Web授業では、理解できましたかという問いにあまり理解できなかったと回答した学生が12%あったと言う事で、もう少し深い説明が必要であったかな？と感じています。
保	谷 玲子	2134333	保育内容演習	シラバス到達目標は、達成できた・少しは達成できたと感じている学生が80%を超えているが、問い3の予習復習及び課題にあてた時間が、2時間以上と答えた学生が53%と半数以上になっている。90分×3の授業を受講し、2時間以上の家庭学習は少し多い気がする。つまり、課題の良が多すぎることになります。半分为Web授業で、制作の段階から各自1人での制作となり、大変苦労が多かったことと思います。学生型よく頑張ってくれたと感じています。Web授業は、積極的な参加を促すための工夫はそう思う、ややそう思うで100%となっており、特に前半のWeb授業での説明が上手く届いたのでは無いかと感じています。
保	竹歳 賢一	2115011	情報基礎	オンラインで実施されたシラバスで設定した内容や課題を理解できたのが7割程度であったため、さらに学生の実態を把握して改善したい。
保	竹歳 賢一	2115012	情報基礎	オンラインで実施されたシラバスで設定した内容や課題を理解できたのが7割程度であったため、さらに学生の実態を把握して改善したい。
保	竹歳 賢一	2115013	情報基礎	オンラインで実施されたシラバスで設定した内容や課題を理解できたのが7割程度であったため、さらに学生の実態を把握して改善したい。
保	長谷 範子	2134151	保育内容演習(言葉・人間関係)	本科目は、演習として保育の技術を含むものであるが、基本となる理論の学びについて、オンデマンドでの実施の影響もあり不十分なところがあったと思われる。オンデマンド授業における授業資料の提供方法について学生の学びが深まるようさらに工夫を重ねたいと考える。対面授業における保育の技術にかかわる実践は、学生の工夫が見られ、学生間で情報根幹するなど良い刺激となった様子が見られた。
保	長谷 範子	2134152	保育内容演習(言葉・人間関係)	本科目は、演習として保育の技術を含むものであるが、基本となる理論の学びについて、オンデマンドでの実施の影響もあり不十分なところがあったと思われる。オンデマンド授業における授業資料の提供方法について学生の学びが深まるようさらに工夫を重ねたいと考える。対面授業における保育の技術にかかわる実践は、学生の工夫が見られ、学生間で情報根幹するなど良い刺激となった様子が見られた。前半クラスに比べ、課題に欠ける時間が短く、理解についての評価も低い点についての分析が必要と思われる。
保	馬場 住子	2134051	保育・教育課程論	シラバスの達成目標については達成できた・少しは達成できた学生が88%いることから、ある程度は評価できたのではないと思う。また、Zoomで行った授業において学生は積極的に参加していると感じ、積極的な参加を促すための工夫がされていたかについてはそう思う・ややそう思うが89%いることからある程度は評価できると感じた。オンライン課題は理解できた・少し理解できたが85%、予習にあてた時間は1時間から3時間が73%と学生が学習した時間についてもおおむね評価できるのではないと思う。しかしながら、授業を理解できなかった・達成できなかった、積極的に参加できる工夫がされていると思わないと回答した学生もいることから、今後はより丁寧な関わりとそう回答した学生への細やかな配慮が必要であると考える。
保	馬場 住子	2134052	保育・教育課程論	シラバスの達成目標については少しは達成できた学生が63%いることから、ある程度は評価できたのではないと思う。また、Zoomで行った授業において学生は積極的に参加していると感じ、積極的な参加を促すための工夫がされていたかについてはそう思う・ややそう思うが42%、あまり思わない・そう思わないが55%いることから工夫が足りなかったことが反省点として挙げられる。オンライン課題についても少し理解できた37%、あまり理解できなかった・理解できなかったが63%いることから、内容が難しかったことを反省しなければいけないと感じている。今後は、学生が授業を理解できるよう、丁寧な解説と進み方をゆっくりする、課題の難易度を下げるなどの配慮が必要であると考える。
保	堀口 節子	2141011	カウンセリング概論	解答者が少人数（6人）であるが、ばらけたアンケート結果になった。問1授業の工夫は、高評価は4人いるが、「あまり思わない」は2名。問2理解については「少し理解できた」は4人、「あまりできなかった」2人。問4目標達成度は、「かなり、すこし達成」は4人、「あまりできなかった」は2人の結果だった。「できた」と評価する学生がいる反面、「あまりできなかった」と評価する学生もおり、今後、もっとわかりやすい言葉や図表を利用し、授業を組み立てていきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	澁谷 みどり	2112011	英語（英会話A）	テキストで使われている表現を覚えて使えるように分かりやすく説明をし練習問題を解くようにしたこともあり、授業内で実施した内容について理解できたと考える学生が多かった。理解できたと感じることで到達目標に少しでも達成できたと考える学生が多かったのは良かったと考える。今後も、理解できると思えるような授業をして、自信をつけてもらえるようにしたい。
保	澁谷 みどり	2112012	英語（英会話A）	テキストで使われている表現を覚えて使えるように分かりやすく説明をし練習問題を解くようにしたこともあり、授業内で実施した内容について理解できたと考える学生が多かった。理解できたと感じることで到達目標に少しでも達成できたと考える学生が多かったのは良かったと考える。今後も、理解できると思えるような授業をして、自信をつけてもらえるようにしたい。
保	澁谷 みどり	2112013	英語（英会話A）	テキストで使われている表現を覚えて使えるように分かりやすく説明をし練習問題を解くようにしたこともあり、授業内で実施した内容について理解できたと考える学生が多かった。理解できたと感じることで到達目標に少しでも達成できたと考える学生が多かったのは良かったと考える。今後も、理解できると思えるような授業をして、自信をつけてもらえるようにし、保育現場でも応用できそうなトピックを授業に取り入れるようにしたい。
保	鎔 功	2113011	スポーツⅠ（1・2組）	問3の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。の回答が、ほぼ30分未満ということで、この授業は実技なのでもう少し課題を増やし、体を動かしてもらってもよかったかなと思う。オンライン授業も、もう少し理解して欲しかったので、Zoomの使い方を練習しないと思う。
保	鎔 功	2113012	スポーツⅠ（3・4組）	問4の到達目標をどの程度達成できたと思いますか。の回答で、ほとんどの学生がかなり達成できた・少しは達成できたのでよかったと思うが、予習・復習に当てた時間が少ないのは気になってしまう。もう少し課題を増やせばよかった。
保	鎔 功	2113013	スポーツⅠ（5・6組）	問1の積極的な参加を促すための工夫がされていましたが。の回答が、そう思う・ややそう思う・あまり思わないにばらけてしまったが、このクラスの出席率は良かったと思うので悩んでしまう。また、課題に当てた時間が少なかったため、増やせばよかったと思う。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	工藤 真由美	2215024	卒業ゼミ【発展】工藤ゼミ	自己評価において、オンラインでの授業内容や課題の理解も「理解できた」、授業の到達度においても「かなり達成できた」と回答している学生と、オンラインでの授業内容や課題について「少し理解できた」、授業の到達度においても「少しは達成できた」と回答している学生が同率になっている。実際の成績評価でも、「優」以上と「良」の学生が拮抗しており、シラバスに記載した到達状況において、学生評価との評価の齟齬は感じられない。概ね達成できたと感じる。ただし課題もある。それは1週間の予習・復習が30分未満であることである。毎回の課題作成を考えると、1時間は必要だと思うので、もう少し予習・復習に時間を使ってほしいと思う。今後、促進するよう働きかけていく。
ラ	工藤 真由美	2210071	ライフデザイン入門	入学直後の集中授業、6人の教員によるオムニバス形式である本科目において、間2オンライン授業は実施されていなかったため、学生は2日間の対面による集中授業時の内容や課題についての理解を回答した。「理解できた」と「少し理解できた」がほぼ同率で46%と47%となり全体の93%の学生が概ね理解できていることが分かった。到達目標の達成度についても、「かなり達成できた」29%、「少しは達成できた」66%、合計95%の学生が到達目標を概ね達成できたと考えている。実際の成績も優以上が多数を占めていることから、到達目標を達成できていると教員としても評価している。しかし、「ほとんど達成できなかった」が3%、2人いることは今後の課題として授業内容の工夫などをしていきたい。
ラ	工藤 真由美	2210201	日本語表現法〔A〕	オンライン授業、対面授業でも極力学生が受け身にならないように、授業の工夫をした。結果として93%の学生が、積極的な参加を促す工夫について「そう思う」「ややそう思う」と回答していたことは大変喜ばしい。オンラインによる内容や課題の理解度も93%の学生が「理解できた」「少し理解できた」と回答し、シラバスに示した到達目標においても、90%の学生が「かなり達成できた」「少しは達成できた」と回答しており、理解と到達度がほぼ90%以上の同数となっている。実際の授業成績においても「優」以上の学生が80%以上を占めており、教員の評価と学生の評価がほぼ一致しているといえる。予習復習も1時間から2時間が62%を占め、これもシラバスに示した狙い通りである。総じて、授業の狙い、到達目標等が齟齬なく達成できたと感じる。今後も継続できるよう工夫を重ねていきたい。
ラ	工藤 真由美	2210203	日本語表現法〔B〕	オンライン授業、対面授業でも学生が受け身にならないように、授業の工夫をした。結果として90%の学生が、積極的な参加を促す工夫について「そう思う」「ややそう思う」と回答していたことは大変喜ばしい。オンラインによる内容や課題の理解度は83%の学生が「理解できた」「少し理解できた」と回答していた。同じ日本語表現法〔A〕と比較して、オンライン授業での欠席者が多かったことが数字に反映されているかもしれない。またシラバスに示した到達目標においては、90%の学生が「かなり達成できた」「少しは達成できた」と回答している。実際の授業成績においても「優」以上の学生が80%以上を占めており、教員の評価と学生の評価がほぼ一致しているといえる。予習復習も1時間から2時間が47%、30分未満も47%と同数である。日本語表現法〔A〕と比較して、短いほうにシフトしており、それと連動して、成績評価も良、可の比率が増えている。総じて、授業の狙い、到達目標等が達成できている。今後も継続できるよう工夫を重ねていきたい。
ラ	工藤 真由美	2131021	教育原理（1・2・3組）	積極的な参加を促す工夫に関しては70%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、概ね達成できたと感じる。一方で30%は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答しているので、一段の工夫が必要と感じる。原理系科目ではあるが工夫の余地は十分にあると思う。理解度に関しても71%の学生が「理解できた」「少し理解できた」と回答している。またシラバスの到達目標に関しては、81%の学生が「かなり達成できた」「少しは達成できた」と回答し、「あまり達成できなかった」と回答したのは19%7名、「ほとんど達成できなかった」という回答は0である。しかし、実際には不可の学生が7名おり、人数は一致するものの、学生の自己評価が上方に振れていることがわかる。最終試験前に実施した評価とはいえ、あまり達成できなかったと思う学生には、試験前にしっかり取り組むよう働きかけていくことが今後の課題である。
ラ	工藤 真由美	213022	教育原理（4・5・6組）	積極的な参加を促す工夫に関しては77%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、概ね達成できたと感じる。一方で23%は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答しているので、一段の工夫が必要と感じる。原理系科目ではあるが工夫の余地は十分にあると思う。理解度に関しても84%の学生が「理解できた」「少し理解できた」と高い比率で回答している。またシラバスの到達目標に関しては、90%の学生が「かなり達成できた」「少しは達成できた」と回答し、「あまり達成できなかった」と回答したのは19%7名、「ほとんど達成できなかった」という回答は0である。しかし、実際には不可の学生が11名おり、学生の自己評価と教員評価が不一致を起している。最終試験前に実施した評価とはいえ、あまり達成できなかったと思う学生には、試験前にしっかり取り組むよう働きかけていくことが今後の課題である。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	吉井 珠代	2230211	公衆衛生学	当該科目は、授業内容が広範囲なうえ難易度が高い授業であったが、アンケートの 問1. 授業運営の工夫に、71%が、問2. オンライン授業における理解に、88%の学生が、「理解できた」と答えていました。 問4. では89%の学生が「シラバスの到達目標を達成できた」と答え、安堵しました。今回、15回授業の途中で対面授業からオンライン授業に変更となりましたが、オンライン授業後の提出レポート内容が、授業回数が増えるごとに良くなっていましたので、最終試験は期待通り、ほぼ全員が（一部、再試験がありました）良好な成績でした。最終的には、全員が履修（単位認定）でき、概ね『到達目標の達成が図られた』と考えています。
ラ	吉井 珠代	2230251	解剖生理学	問1. 授業運営の工夫に、68%が、問2. オンライン授業における理解に、80%の学生が、「理解できた」と答えていました。また、問4. では83%の学生が「シラバスの到達目標を達成できた」と答えていましたが、最終成績は個人差が大きく、再試験該当者も多く出たため、アンケート結果との齟齬が気にかかるところではあります。しかし、当該科目の到達目標は、自分自身の身体のメカニズムを知ることで、“生命の尊さや人体の神秘”を理解させるという目的もあったため、受講したことで「自分自身の身体に関心を持ち、健康の保持・増進の重要性を意識」しての回答であったのなら、嬉しいところであり、『概ね、到達目標の達成が図られた』のではないかと考えます。
ラ	吉井 珠代	2214031	ライフデザイン基礎演習Ⅰ	当該科目は、卒業必修の授業であり、アンケートの 問1. 授業運営の工夫に、90%が、問2. オンライン授業における理解に、96%の学生が、「理解できた」と答えていました。さらに、問4. では95%の学生が「シラバスの到達目標を達成できた」と答え、授業実施者の一人として安堵しました。最終の「コミュニケーション検定」の合格率が92.4%（過去最高）になったことから、『到達目標の達成』が図られたことに加え、ディプロマ・ポリシーへの到達にも近づけたのではないかと考えます。
ラ	中川 玲子	2210071	ライフデザイン入門	授業評価アンケートの結果から、学生の理解度については、約半数の学生が「理解できた」と答え、「少し理解できた」を含めると、86%の学生が理解できており、2年間の学びの基礎作り、なりたい自分探しに役立ったといえる。学習目標の到達度は「かなり達成できた」「少しは達成できた」合計で95%であり、学修成果の獲得状況は極めて良い結果であった。
ラ	中川 玲子	2214031	ライフデザイン基礎演習Ⅰ	学生の成績は、秀17人（26%）、優33人（50%）、良12人（18%）、可4人（6%）、であり、学習目標の到達度80%以上の学生が76%であった。この科目が資格取得を支援している「コミュニケーション検定〔初級〕」は、受験者66名中61名が合格した。合格率は過去最高の92.4%と非常に高い学習成果の獲得状況であった。このような学びの成果は授業評価アンケートの結果にも示されていた。60%の学生（ややそう思うを含む）が、授業は積極的な参加を促していたと感じ、やや理解できたを含む理解ができた学生が96%、シラバスの目標が達成できた（少しを含む）と評価した学生は95%であった。今後もこの傾向を継続したい。
ラ	中川 玲子	2215023	卒業ゼミ（発展）	卒業ゼミ（発展）は学生一人ひとりの興味と意欲に合わせて指導を行い、成績はルーブリック評価を指標に取り入れた。11名中4名が第4段階、4名が第3段階と、7割強の学生が創意工夫してゼミ研究に取り組んだ。授業評価アンケートでは約8割の学生が積極的な参加を促すための工夫がされていたと評価。Zoom授業では短時間でも一対一でディスカッションを継続して行った。この方法が学生の学びに有効であったことがわかった。11名中1名を除くほとんどの学生が予習、復習、課題に1時間以上を充て、中でも4名は2時間以上を学習に充てており、成績、授業評価アンケートの双方から、主体的、積極的な学びで学習成果を獲得したことが明らかになった。
ラ	中川 玲子	2240111	食の科学A	2021年度前期は一名の評定は100点と満点であり、目標が達成できた。他の学生はレポート提出の要件を満たさなかったり、レポートが提出されなかったりで、単位取得に至らなかった。授業評価アンケートでは、全員が授業の工夫については積極的な参加を促す工夫がされていたと評価しており、理解度も「少しは理解できた」を含めると、86%の学生が理解できていた。シラバスに示す到達目標にも全員の学生が（少しを含めて）達成できたと評価している。今後は単位取得に繋げるため、レポート作成指導にも力を入れていきたい。
ラ	中川 玲子	2240141	食品・食材の知識	授業評価アンケートでは、1名を除く全員（「ややそう思う」を含めて）が積極的な参加を促す工夫がされていたと評価し、理解度も1名を除く全員（「少し理解できた」を含めて）が理解できていた。また、シラバスに示す到達目標には全員が「少しは達成できた」と評価した。成績は、秀33%、優33%、良17%、可17%であった。成績に見る学習成果の獲得状況は80%以上獲得できた学生が66%であった。この科目は8回授業であり、少ない回数でも要点の理解度を高め、より多くの学生が学修成果を獲得できるように、さらに工夫していきたい。
ラ	中川 玲子	2240391	食生活アドバイザー	授業評価アンケートでは、1名を除く全員（「ややそう思う」を含めて）が、授業に対して積極的な参加を促す工夫がされていたと評価した。理解度については、全員（「少し理解できた」を含めて）が理解できていた。1名を除く全員が1時間以上予習、復習、課題に取り組んでいた。成績では、秀が3名33%、優以上の評価が5名（56%）であった。授業評価アンケートでは、回答者の84%がシラバスに示す到達目標を達成（少しはを含む）できたと感じていた。しかし、検定試験の合格者は2名と少ないので、今後は検定試験合格の実績に繋がるよう指導していきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	伊東 めぐみ	2215022	卒業ゼミ（発展）	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、53%であり、次は「かなり達成できた」で21%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が7名、優が3名、良が4名、可が6名であり、秀と優を合わせると10名となり50%となる。このことから、アンケートによる学生の自己評価のほうが実際の成績より少し高いということがわかる。今回は約半数の回の授業がオンラインとなり、授業担当者としては検定試験合格レベルの学力をつけるという点では厳しかったという実感を持っているが、学生は自身の理解度について正確に把握することが若干難しかったのかもしれないと感じた。今後、オンラインでいかに学生の理解度を向上させるかについて検討していきたい。
ラ	伊東 めぐみ	2230011	医療事務総論	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、71%であり、次は「かなり達成できた」と「あまり達成できなかった」が同じで14%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が2名、優が1名、良が2名、可が2名であり、秀と優を合わせると33%となる。このことから、アンケートによる学生の自己評価のほうが実際の成績よりかなり高いという結果となった。理由として考えられるのは、オンライン授業の場合授業ごとに課題を設けており、この課題については比較的簡単にできる内容にしていたため、理解できたという感覚を持ってしまったのではないかとということである。今後は、最終の授業内テストが評価のウエイトを占めていることを理解させ、勉強するよう促す必要があると考える。
ラ	伊東 めぐみ	2230012	医療事務総論	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、69%であり、次は「かなり達成できた」で20%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が6名、優が12名、良が6名、可が5名であり、秀と優を合わせると48%となる。このことから、アンケートによる学生の自己評価のほうが実際の成績よりかなり高いという結果となった。理由として考えられるのは、オンライン授業の場合授業ごとに課題を設けており、この課題については比較的簡単にできる内容にしていたため、理解できたという感覚を持ってしまったのではないかとということである。今後は、最終の授業内テストが評価のウエイトを占めていることを理解させ、勉強するよう促す必要があると考える。
ラ	伊東 めぐみ	2230021	医療事務Ⅰ	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、70%であり、次は「かなり達成できた」と「あまり達成できなかった」が同率で15%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が1名、優が6名、良が3名、可が4名、不可が7名であり、秀、優、良、可までを合わせても62%であり、学生の達成状況の自己評価とかなり剥離がある。理由として考えられるのは、オンライン授業の場合授業ごとに課題を設けており、この課題については比較的簡単にできる内容にしていたため、理解できたという感覚を持ってしまったのではないかとということである。今後は、最終の授業内テストが評価のウエイトを占めていることを理解させ、勉強するよう促す必要があると考える。
ラ	伊東 めぐみ	2230022	医療事務Ⅰ	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、65%であり、次は「かなり達成できた」で17%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が1名、優が7名、良が4名、可が5名、不可が8名であり、秀、優を合わせて29%であり、学生の達成状況の自己評価とかなり剥離がある。理由として考えられるのは、オンライン授業の場合授業ごとに課題を設けており、この課題については比較的簡単にできる内容にしていたため、理解できたという感覚を持ってしまったのではないかとということである。今後は、最終の授業内テストが評価のウエイトを占めていることを理解させ、勉強するよう促す必要があると考える。
ラ	伊東 めぐみ	2232381	診療報酬請求事務演習 A	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、53%であり、次は「かなり達成できた」と「あまり達成できなかった」が同率で21%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が11名、優が7名、良が0名、可が1名であり、秀、優を合わせて90%に達し、学生の達成状況の自己評価よりも成績のほうがよいという結果になった。理由として考えられるのは、授業内テストをオンラインで実施したがこのテストの点数の平均点が高く、そのため成績が上積みされたわけだが、検定試験問題を解いて受験に備えるという内容を授業で行っていたため、検定試験そのものの出来がよくないと感じた学生は自己評価を下げたのではないかとということである。今後も、引き続き検定試験の受験支援科目として、多数の合格者を出せる内容の授業としていきたい。
ラ	伊東 めぐみ	2235021	医療事務のための医学知識Ⅱ	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、68%であり、次は「かなり達成できた」であり、19%の学生が答えている。学生の成績から見ると、秀が7名、優が7名、良が6名、可が4名、不可が9名であり、秀、優を合わせても42%であり、アンケートによる学生の自己評価とかなり剥離がある。理由として考えられるのは、対面授業時に毎回行った小テストの結果が全体的に良かったため、自己評価に反映されたのではないかと考える。しかしその後の定期試験は、よく勉強して挑んだ学生は高点数になり、そうでない学生は不可となった。今後は、定期試験に向けての勉強方法のレクチャーを詳しく行うなど、定期試験へ向けての勉強を促していきたい。
ラ	伊東 めぐみ	2230411	病院実習	シラバスの到達目標の達成状況は、授業評価アンケートの結果については「少しは達成できた」が一番多く、55%であり、次は「あまり達成できなかった」であり、23%の学生が答えている。その次に多かったのが「かなり達成できた」で18%、「ほとんど達成できなかった」は5%であった。この科目の成績は後期授業の成績と同時に発表されるようになっており、現在は成績が未定であるため、アンケートの結果のみを記した。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	河合 真知	2210061	くらしのマナー[い]	成績評価の上では、91%が秀優良であり、可が9%であった。学生自身は「シラバスの到達目標」の達成状況について、計85%が「かなり達成できた」「少しは達成できた」と評価している。この結果は、成績評価と学生の認識に大きなずれがない上、全体に好成績となったと言える。小テスト時の欠席連絡についても連絡なしの学生はおらず、「社会人としての基本的なマナーを身につける」という目標が、ある程度達成できた結果と考えられる。アンケートの「予習・復習時間」についての回答で、30%の学生が「30分未満」の学習しかしていない。次年度は、自主勉強できる課題提示の方法を検討し、予習・復習時間を上げていきたい。
ラ	河合 真知	2210062	くらしのマナー[ろ]	アンケートの「積極的な参加を促すための工夫がされていたか」について、「そう思う・ややそう思う」が100%であり、「あまり思わない」以下がいなかったことは、授業方法として一定の評価ができる。今後も今期の形態を継続し、積極的な授業参加を促したいところである。しかし、成績については17%が可である。低い理由は、小テスト時に欠席がある場合は申し出るように通達していたにも関わらず、連絡をしてこなかった学生が複数名おり、この部分の評価が低いためである。当該授業の到達目標の一つである「社会人としての基本的なマナーを身につける」の観点からも致し方ない評価である。引き続き基本マナーの必要性を指導していきたい。
ラ	河合 真知	2214011	キャリアデザイン[A]	アンケートの「オンラインで実施された内容や課題はどのくらい理解できたか」についての結果と、「到達目標がどの程度達成できたか」の結果について、関連があるように見受けられる。「オンラインで実施された内容や課題」は、「理解できた」24%、「少し解ってきた」69%、「あまり理解できなかった」7%であり、「到達目標がどの程度達成できたか」は、「かなり達成できた」14%、「少しは達成できた」76%、「あまり達成できなかった」10%である。オンライン時にあまり理解できなかったと回答した7%（実質2人）が、具体的にオンライン時のどこが原因で理解できなかったのか、今後探って改善していきたい。
ラ	河合 真知	2214012	キャリアデザイン[B]	アンケートの「積極的な参加を促すための工夫」について、「そう思う」60%、「ややそう思う」37%、「あまりそう思わない」3%であったことは、授業方法として、次年度も一定の継承はできると考える。「シラバス到達目標の達成」については、90%が達成できたと答えているが、成績の上では、20%が可の評価であった。評価方法の課題の提出が足りない学生が、低い成績となっている。しかし、成績面では振るわずとも、シラバス目標の「自らのキャリアを考える」ことはできたと、学生自身が感じている結果と言える。遠隔授業は、課題提出が増えがちであるが、次年度は、自らの考えを書いてまとめることの重要性も伝えていきたい。
ラ	河合 真知	2215025	卒業ゼミ（発展）（河合ゼミ）	アンケートの「積極的な参加を促すための工夫がされていた」に対して、回答者全員が「そう思う」としていたことは、今期の授業方法をブラッシュアップしつつも、次年度にある程度の継承はできると考える。アンケートの「シラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたか」について、「かなり達成できた」67%、「少しは達成できた」33%であったことは、学習内容及び計画を立てるという指導からも、学生は、達成できたと評価していると認められる。しかし、成績上は、到達目標の「書く」部分で苦戦した学生があり、学生の評価と成績に少し差異があると感じる。次年度は学生が苦手とする「書く」部分の指導法を改善していきたい。
ラ	河合 真知	2260111	ビジネス実務演習	「シラバス到達目標達成」について、アンケートでは「かなり達成できた」25%、「少しは達成できた」71%であり、残り4%（実質1人）が「あまり達成できなかった」であった。成績上で不可がないことから、学生自身の目標達成の認識と実際の評価に大きなずれはないと考えられる。アンケートの「積極的な参加を促す工夫」について、「そう思う」75%、「ややそう思う」25%であり、「あまり思わない」以下がなかったことから、授業方法としては現行を継続しつつ、ブラッシュアップしていきたい。今後の課題は、予習・復習時間について、33%が30分未満としていたことである。次年度は、自主勉強時間を増やす工夫を加えたい。
ラ	河合 真知	2210071	ライフデザイン入門	入学後すぐの2日間の集中授業であり、緊張の中、長時間の受講であった。「シラバス到達目標をどの程度達成できたか」については、「かなり達成できた」29%、「少しは達成できた」66%であった。この結果から、多くの学生が各授業の概要を把握し、短期大学での学生生活や学びのモチベーションを上げることができたと推測される。アンケートの「積極的な参加を促す工夫」については、「あまり思わない」8%、「そう思わない」5%であった。内容上、説明が多くなりがちであるが、次年度は、積極的な参加を促すことをより意識して改善していきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	安谷 元伸	2210501	情報基礎 [A]	オンラインで実施された授業の内容や課題は理解できましたかとの問いに対して、1名が理解できなかったと答えており、その学生に対してどのような取り組みを行っていかは今後の課題である。一方で、「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか」の問いに対しては、「ほとんど達成できなかった」と答える学生はいなかったことから、必修授業として学習内容の一定の理解が得られたものと考えられる。さらに、「あまり達成できなかった」と答える学生を減らせるよう目指していきたい。
ラ	安谷 元伸	2210502	情報基礎 [B]	Zoomなどの授業内容を理解できましたかとの問いに対しては、情報基礎 [A] の授業よりも「理解できなかった」と答える学生数が多かったものの、「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか」の問いに対しては、「あまり達成できなかった」「ほとんど達成できなかった」と答える学生はおらず、その点においては必修授業として学習内容の一定の理解が得られたものと考えられる。今後は、Zoomやオンデマンドによる授業が行われる際に、詳細な説明などを行うことで理解が得られなかった学生に対応していきたい。
ラ	安谷 元伸	2211031	文書処理演習Ⅰ (Word) [A]	実技を主体とする学習の為にZoomなどのオンラインの授業とは相性があまり良いとは言えない内容であったものの、「理解できなかった」「あまり理解できなかった」と答えた学生は3名程であった。シラバス達成については、4名程が達成できなかったと回答している。今期はコロナ禍による練習時間の確保が十分でなかったため、そのような学生への十分な応対ができなかったことが回答の一因になっている可能性もあるため、後期以降は状況をしっかりと見定めて対応していきたい。
ラ	安谷 元伸	2211033	文書処理演習Ⅰ (Word) [B]	文書処理演習Ⅰ (Word) [A] 同様に、実技を主体とする学習の為にZoomなどのオンラインの授業とは相性があまり良いとは言えない内容である。「理解できなかった」「あまり理解できなかった」と答えた学生が5名程見られており、[A] の授業と同じ傾向でありながら人数には若干の増加が見られた。一方で、シラバス達成については、回答が「少しは達成できた」「かなり達成できた」のみであり、[A] の授業とは異なる開講傾向が見られている。新型コロナウイルスの流行は収束していないため、今後もZoomやオンデマンドによる授業における詳細や明などを行い理解が得られなかった学生に対応していきたい。
ラ	安谷 元伸	2211501	情報倫理	オンライン授業の課題や内容に対しては、「理解できた」「ほぼ理解できた」が100%であり、概ね授業の意図を学習者に伝えることができた。その一方で、シラバスの達成については3名程が「あまり達成できなかった」と解答しており、そのような学生へのフォロー構築が今後の課題であると思われる。
ラ	安谷 元伸	2215026	卒業ゼミ発展 (安谷ゼミ)	アンケート結果からは、授業参加の工夫、オンラインで実施された内容についての理解、シラバスの到達目標の達成において、あまり思わない、あまり理解できなかった、あまり達成できなかった以下の回答はなく、概ね授業の目標は達せられたものと考えられる。今後も継続して現状を維持していきたい。
ラ	安谷 元伸	2250241	表計算演習Ⅰ (Excel)	実技を主体とする学習の為にZoomなどのオンラインの授業とは相性があまり良いとは言えない内容であったためか、「あまり理解できなかった」と回答した学生が18%見られた。ただ、「理解できなかった」と答えた学生はいなかったことから、ある程度実技の内容も知識問題などオンラインで対応することが可能であることが伺えた。シラバスの到達目標の達成については、「あまり達成できなかった」「ほとんど達成できなかった」と答える学生はおらず、コロナ禍という状況ではあったものの、実技授業として目的を一定達することができたものと思われる。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	赤田 太郎	2214031	ライフデザイン基礎演習Ⅰ	この科目は、コミュニケーション検定3級合格が目標となっている。今回の合格率は9割を超えたので目標を達成したと考えている。今年度は個別のワークができない部分があったため、アクティブラーニングの要素をいかに加えていこうか、今後の課題と考えている。
ラ	赤田 太郎	2211701	自分探しの心理学	オンデマンドで行ったため、この科目は双方向的なやり取りとしては十分に行えなかった面があると思われる。テーマが「自分探し」ということもあり、考える時間を講義内でとることが求められるものの、それらが十分にできる環境になかった。今後の課題としては、来年度もオンラインになった場合、一部ライブ配信やZOOMの実施などを含めることでこれらの問題をクリアできると考えている。
ラ	赤田 太郎	2210071	ライフデザイン入門	心理・パフォーミングアーツエリアの必要性について十分に伝えることができた。心理師になるためのエリアであると誤解している人もいたので驚いたが、おおむね全員が自分にとって必要と思ってもらえたと考えている。今後の課題としては、さらに心理エリアの魅力を視覚的に訴えるようにしていきたいと考えている。
ラ	赤田 太郎	2215021	卒業ゼミ（発展）	一部でオンラインでの取り組みとなり、発表形式の変更を急な展開でお願いすることになった面もあり、研究発表を十分に計画通り進めていくことができなかったが、何とか最終的に全員が発表したい内容をまとめることができたと考えている。今後の課題としては、体験や発表形式を明確にしたうえで、その枠組みを事前に提示していく必要があると考えている。
ラ	赤田 太郎	2270011	人間関係論	おおむね、社会人になったときに必要と考えている人間関係の学びをお伝えし、理解を促す出来たと考えている。それぞれ身につけておいて役に立つものばかりなので、今後とも実践してほしいと考えている。今後の課題としては、ワークショップ形式での話し合いの時間などを取ることであれば、より実践に有効活用できると考えている。
ラ	岡本 久仁子	2210501	情報処理 [A]	ほとんどの学生が到達目標に達したと思われるが、欠席が多かったり、実技授業についてこれない学生も数人いたようである。
ラ	岡本 久仁子	2210502	情報基礎 [B]	ほとんどの学生が到達目標に達したと思われるが、欠席が多かったり、実技授業についてこれない学生も数人いたようである。前期は木曜日にJRの運行トラブルが発生することが重なり、授業時間が削られる中、よくがんばってくれたと思う。
ラ	岡本 久仁子	2250251	表計算演習Ⅱ	オンライン授業等で実技時間が削られる中、内容の理解が十分でない学生が一部でたようである。
ラ	岡本 久仁子	2250253	表計算演習Ⅱ	オンデマンドなどで実習時間を削られた分、予習復習に時間をとれなかったため、到達目標に達しない学生が多かったようである。
ラ	叶 雅夫	2273171	子どもの発達と絵画	ほとんどの学生は到達目標を達成する事が出来た。しかし少数だが説明を理解しにくかった学生も居るので、次年度は発想を膨らませるための説明を、より丁寧に心掛けたい。しかし学生によっては、あまり細かく説明をし過ぎない方が良い場合も有るので、状況を見ながら個々に対応したい。それが創造性を膨らませる基にもなる。皆と同じ物を作るのではなく、自分自身のオリジナルな絵本が完成した事に学生は充実感を感じていた。
ラ	黒川 圭子	2212311	スポーツⅠ	まず、コロナ禍での実技は、感染予防対策を第一に考え、指導者側と学生との相互理解と協力がなければ、授業が成り立たない点において、学生が毎回、ルールに沿って行動し協力的であったことで、無事に終了できたことが何よりであった。・スポーツの実践が5回と全体の3分の1しかできなかった中で、真剣に勝負し、また勝敗だけにこだわらず、積極的にスポーツを楽しんでいる様子は、十分にうかがえた。この点においての目標は、達成できたと考える。・ルールの理解度については、オンラインでも復習を兼ねたが、やはり実践を重ねながら、理解度を深める過程が大切で、その時間が無くなってしまった状況により、達成度は5割程度であった。・学生各自で考案してもらったルールで皆で実践する時間が取れたことは、この授業ではかなり有益と考える。・今後の課題として、実技時では、少ない備品の創意工夫の活用法。オンライン授業では、実技がより楽しめることにつながる題材の教材研究である。
ラ	黒田 恭史	2250141	文書処理演習Ⅱ（Word）	コロナ禍のため、授業期間が変則的になり、1週間に1回の規則的な授業と、その間に復習したり、補完したりする時間の確保が難しかったため、底上げが少しできなかったと感じている。今後も様々な局面が生じることが予想されるが、柔軟に対応しながらも、学習効果を高める方策を工夫していきたいと思う。
ラ	佐々木 研	2220241	ファッションビジネス概論	オンライン授業が多かったため、予定していた実習等が導入できず、達成度が不十分だったことは否めないが、課題の内容やボリュームについては、昨年度の経験をふまえ大きく改善できた。
ラ	佐々木 研	2220261	ファッションビジネス演習	ファッションビジネス概論同様、オンライン授業が多かったため、予定していた実習等が導入できず、達成度が不十分だったことは否めないが、課題の内容やボリュームについては、昨年度の経験をふまえ大きく改善できた。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	山岡 正弘	2240221	厨房機器・設備	受講者全員が初めての内容で、なかなか理解度が進まなかったが、ホテルグランヴィア大阪見学時及び見学後のレポートの内容をチェックすると理解度が高くなっている。見学時でのマナーも十分できていたので、一定の成果があったと思われる。今後の授業効率を高める為に学校での座学で動画などを取り入れていく必要があると感じた。授業態度は、一部の生徒を除いて問題はない。
ラ	篠原 富美子	2234011	調剤請求	到達目標に達成出来たと少なからず思っている学生が60%であった。学生の成績もS・A評価合わせて約70%であった。ほぼ一致していると考えられる。昨年のオンライン授業を踏まえて何度も再生できるオンデマンドに変更したことにより再生回数が各授業学生数15名に対して70回を超えていたことが大きな要因であると思われる。対面に勝るものはないがオンデマンドの活用は有意義である。今後の課題としては撮影技術の向上によりどのデバイスでも画像・音声鮮明であるようにしたい。またQandAを迅速に活用できる方法を考えたい。
ラ	酒井 恵理子	2210311	英語(英会話A) [い]	授業評価アンケート問1で100%の学生が「そう思う・ややそう思う」と解答したのは、対面授業内では勿論のこと、コロナ禍での遠隔授業内で「英会話」授業らしさを保つため、オンラインでもグループディスカッション活動を数回行ったためだと推察する。この結果は問2の理解度(87%・同上)、問4の目標達成感(84%・同上)にも貢献していると考えられ、今後の授業設計において学生間・教員との相互コミュニケーション活動が有効であると考ええる。
ラ	酒井 恵理子	2210313	英語(英会話A) [ろ]	授業評価アンケート問1で97%の学生が「そう思う・ややそう思う」と解答したのは、対面授業内では勿論のこと、コロナ禍での遠隔授業内で「英会話」授業らしさを保つため、オンラインでもグループディスカッション活動を数回行ったためだと推察する。この結果は問2の理解度(70%・同上)、問4の目標達成感(85%・同上)にも貢献していると考えられ、今後の授業設計において学生間・教員との相互コミュニケーション活動が有効であると考ええる。
ラ	松谷 治代	2240161	ブレッド&テーブル演習	オンライン授業が主となってしまったため、対面授業が7回の代わりに2回しか行うことができず、目標にしていた「材料の特性、こね方、発酵の見極め、焼成」を十分に体験としてマスターさせることができなかった。また、「様々なパンの成形方法を学び、味や食感の違い」についても、ZOOMで見せることしかできず、実際に触ってもらうことができなかった。「演習」という授業形態のため、オンライン授業では、いくら工夫しても、学生に実際に触ってもらうことに比べると限度があり、その点が残念でした。そんな中でも、オンライン授業では、熱心に参加してくれて、課題の提出率もよく、興味を持ってもらうことができたのでは?と思います。
ラ	森石 加世子	2271151	家族心理学	今年度は、オンライン授業では、学生の学習意欲が低下しがちであることを考慮して、学習意欲が向上されるように工夫した。その結果、オンライン授業の期間が長かったが、成績も高く、シラバスの到達目標も授業評価アンケートの結果でも示されたように、概ね達成されたと考えられる。とりわけ参考資料は、学生の興味関心を促進し、学習意欲の向上にもつながり、効果的だったと考えられる。今年度は、対面とオンラインと混合授業だったため、オンライン授業では十分に学習できない内容は、対面授業の時期に実施した。今後、昨年度のようにオンライン授業のみしか実施されない場合を考慮して、内容の工夫を行っておく必要があると考えている。
ラ	数藤 晶子	2240151	テーブルコーディネート &テーブルマナー	オンライン授業と一部対面授業(おもに実習)にて授業をすすめてきたが、全体的にしっかりオンライン授業への出席と課題に取り組めた学生ほど理解度が高く、成績も良い傾向にあった。特にオンライン授業に出席せず、課題だけを提出する学生が何名かいたが、やはり課題の内容が不十分なものが多く、今回の最終の成績にて評価を反映することにした。シラバスの目標にテーブルコーディネートの実践力を身につけてもらうことがあったので、なんとか対面にて実習を行うことにより、出席していた学生には達成感を感じてもらえたと思う。オンライン授業での目標達成には、限界があるので、少しでも対面授業を実施できてほしい。
ラ	杉本 篤史	2260301	簿記入門	オンライン授業について、学生の理解度を確認しながら進むのが難しかった。簿記の科目の特性上実際に問題を解いていただき、慣れていく過程が必要であったが授業時間だけで実施することができなかった。課題を出し自宅学習の時間を確保することも必要になってくると思う。また、理解度に幅がありどこの層をターゲットに授業をしていくのが良いかが今後の課題になる。簿記の検定を目指している層は、基礎的なところはできているので授業より問題を解いてもらい質問を受けつける形式の方が良いかと思う。
ラ	瀬口 昌生	2223011	プレゼンテーション概論	概ねこちらの意図した通りの結果であった。工夫した点を挙げれば、オンラインの授業回である。最初ログインさえすれば、後は聞き流せばよいという傾向を避けるため、必ず質問を投げかけ、それに即座に答えてもらうような仕組みを施した。しかしながら、理解度の結果を見ると、「少し理解できた」「あまり理解できなかった」という意見も見られる。どうしても一方的になりやすい形態であるが、それを如何に打破するか。その点が今後の課題である。
ラ	倉津 三夜子	2242021	アロマセラピー(演習含む)	受講登録人数5名、アンケートの回答者数3名という結果で学生の考えや、思いを受け止めるには、少ない人数となっている。オンライン授業の出席者数も、課題の提出も少なかった。今後、オンライン授業でも、興味を持てるような進め方の工夫をしていきたい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	中村 勝則	2255121	ウェブデザイン2	概ね達成できたと考えております。
ラ	鶴田 美香	2224011	色彩の基礎Ⅰ	課題理解の概ねの達成状況は当初予定していた時よりも、ZOOM授業への不参加や集中力低下の点からみて理解度は浅い。対面授業がはじまり、課題を通して理解できていない部分を生徒自身に確認してもらいながら進めた。対面授業がほぼ復習課題時間となり、生徒自身に負担があったように思う。対面授業に戻ることで、生徒たちの満足感や理解度が回復できた。
ラ	田尻 良	2252021	情報システム論	シラバスの到達目標は「この講義を受講することでコンピュータについてより深く知り、より効果的に活用できるようになる。（以下略）」であったが、そもそもコンピュータを使わずスマホのみで実施する授業で「より効果的に活用」できるようになったとは残念ながら思えない。情報システムの考え方については、相当な時間を割いて伝えたつもりであったが、最初から明らかに意欲の低い生徒や予習復習をしている気配の無い生徒のやる気を変えることができなかったと反省している。そもそもPCにほぼ触れたことのない生徒が多いので、就職後のPC操作を考えるのならば、対面でPCを使う授業にした方がよいのでは？と思う。
ラ	藤堂 隆司	2232141	診療情報管理論B（医療法規含む）	病院における診療情報（カルテ管理）に関連した関係法規や様々な取り組みや現状について知ってもらった。学生が知り得なかったことも多く取り入れ、興味深く受講してもらったことで、高い成績につながった。しかし、医師事務作業補助演習やがん登録演習では、対面授業を行うことができなかった。シラバスの目標到達度は、87%が達成できたと回答した。
ラ	藤堂 隆司	2232211	ICDコーディング実務演習Ⅰ	今年度より後期で実施していた検定試験が廃止になったことで、授業の組み立てに苦労した。学生に対して、ICDコーディング演習を積極的に取り組めるよう工夫したが、実技試験では成績において格差が生じた。シラバスの目標到達度では、90%以上の評価が得られた。
ラ	藤堂 隆司	2232311	医療事務コンピュータⅠ	医療事務で働く上で、医事コンピュータは必須の授業であり、学生には、その重要性をしっかりと理解させることで、意欲的に取り込むよう指導した。その結果、全員が、医事コンの基本的な技術を習得し、実技試験では全員が合格点を上回った。シラバスの目標到達度では、90%以上の評価が得られた。
ラ	藤堂 隆司	2232312	医療事務コンピュータⅠ	医療事務で働く上で、医事コンピュータは必須の授業であり、学生には、その重要性をしっかりと理解させることで、意欲的に取り込むよう指導した。その結果、全員が、医事コンの基本的な技術を習得し、実技試験では全員が合格点を上回った。シラバスの目標到達度では、90%以上の評価が得られた。
ラ	能美 智子	2230041	医療事務Ⅲ（DPC含む）	シラバスの達成状況 1. ほとんどの項目は達成できています。 2. 資源病名の決定やレセプト作成についてはオンデマンドの限界もあり、やや症例数が少なくなった。今後の課題 1. 毎年ですが数名の学生さんが教科書を購入しないため、授業に影響がでます。 オンデマンドであったこともあり、教科書なしでは理解できないと思います。 2. 課題提出ですが、友達のコピペが数名います。 来年は対面授業であれば、教科書の購入や積極性について指導していきます。
ラ	伴 裕果	2210061	くらしのマナー [い]	到達目標は85%が達成と回答し成績と概ね合致している。今後の課題として、達成度を「少し」から「かなり」に高めるために、目標達成度を学生自身および教員それぞれに明確化できる要素を取り入れ、学期中に軌道修正が行えるようにしたい。また予習復習は2時間程度を想定し授業内でその内容を提示したが30分未満が30%で、これはオンライン出席課題のみの実施と考えられる。授業では極力の双方向性を目指したが、リアルタイムでの不参加や授業中の応答がほぼない学生を除いた双方向で対話できた学生が概ね30%程度であることを考えると割合が合致し、成績と目標達成度にも影響していると推定され、双方向性の充実が重要と考えられる。今後の課題として、リアルタイムでの出席と授業内での応答の少ない学生の授業参加を促進するための方策の検討と、よりの確で参加しやすい双方向性の向上、自主的な予習復習を行うような仕掛けを提供したい。
ラ	伴 裕果	2210062	くらしのマナー [ろ]	到達目標は89%が達成と回答し成績と概ね合致している。今後の課題として、達成度を「少し」から「かなり」に高めるために、目標達成度を学生自身および教員それぞれに明確化できる要素を取り入れ、学期中に軌道修正が行えるようにしたい。また予習復習は2時間程度を想定し授業内でその内容を提示したが30分未満が50%で、これはオンライン出席課題のみの実施と考えられる。授業では極力の双方向性を目指したが、リアルタイムでの不参加や授業中の応答がほぼない学生を除いた双方向で対話できた学生が概ね半数程度であることを考えると割合が合致し、成績と目標達成度にも影響していると推定され、双方向性の充実が重要と考えられる。今後の課題として、リアルタイムでの出席と授業内での応答の少ない学生の授業参加を促進するための方策の検討と、よりの確で参加しやすい双方向性の向上、自主的な予習復習を行うような仕掛けを提供したい。

学科	教員氏名	授業コード	科目名	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	兵頭 真由美	2230121	医療秘書実務	非対面での授業となる前に、プリント資料の配付ができたことがオンライン授業での「理解度」、「到達目標の達成感」の高評価につながり、さらに多くの学生が予習・復習にもしっかり時間を当てていたことが、今期の成績にもつながったと考えます。シラバスの到達目標もおおむね達成できました。
ラ	兵頭 真由美	2260201	ビジネス実務総論	非対面での授業となる前に、プリント資料の配付ができたことがオンライン授業での「理解度」、「到達目標の達成感」の高評価につながったと考えます。ただし予習・復習に当てる時間がかなり短い学生が2割ほどいたことが気になりました。そのことも関係したのか、今期の平均点数とシラバスの到達目標達成に課題が残りました。対面授業では、毎回小テストを実施し理解度の確認をしていましたが、オンライン授業では小テストの実施が難しく、理解度の確認をどのようにしていくかをさらに検討してまいります。
ラ	堀口 節子	2272211	カウンセリング概論	問1 授業の工夫、問2授業の内容や課題の理解は、7割～8割の学生がおおむね出来ていると評価していた。問4のシラバスの達成度は「少し達成できた」が7割であった。今後、シラバスの目標達成に近づくような、より細かく、分かりやすい授業を行って行きたい。
ラ	木村 日菜子	2281011	バレエI	バレエという馴染みないジャンルに勇気を持って挑戦して、右も左も分からない1からのスタートの学生が多い授業でしたが、ラストの授業では1人で踊るまでに一人一人が成長できたので有意義な授業になったのではないかと思います。1人で踊る機会なんて滅多にないと思うので、学生にとって貴重な経験になったと思います。振付を覚える難しさ、うまくできない悔しさ、継続する事でわかる身体の変化、苦手を直そうとする精神力等、バレエを通じて沢山の事を学んでもらえたかと思います。オンラインでの授業の方が増えた為、当初の予定より時間が無い中での課題になってしまいプレッシャーや難易度がぐんと上がってしまった事については学生のメンタル面での懸念がありました。皆最後まで出せる力を出し切ってくれました。苦手に向き合う力、1人で踊った経験や自信を今後につなげてもらえればと思います。
ラ	木村 日菜子	2283011	JAZZ I	マンツーマンの授業なので学生のやる気を削がないか心配していましたが、出席率100%で最後まで出席してくれていたことが喜ばしかったです。最初は振付を覚えるのが苦手で、手本を見ないと踊れない、音やリズムに合わせて踊ることが難しい様子でしたが、最後には自分で振付を覚えてリズムも取って踊ることができ、パフォーマンスとしてダンスを踊るようにまでに成長できました。JAZZの授業を通じて、諦めてしまいがち・ネガティブに物事を受け止めてしまう癖を直し、自信を持ってやりたいことをやれるように今後も道を切り開いていけたらと思います。
ラ	柳 慎之介	2282011	HIP HOP I	自由に踊るところは到達しなかったが、いろんなステップを組み合わせた振り付け作る・音楽を楽しむ事は出来るようになりました。今後の課題は、コロナの影響でオンライン授業になった時に何をどう伝えるかをもう少し考える必要があると思いました。
ラ	柳 慎之介	2284011	STREET I	自由に踊るところは到達しなかったが、いろんなステップを組み合わせた振り付け作る・音楽を楽しむ事は出来るようになりました。今後の課題は、コロナの影響でオンライン授業になった時に何をどう伝えるかをもう少し考える必要があると思いました。